

# 観光ビジネス実務士教育課程ガイドライン

21. 4. 1 一部改正

28. 4. 1 一部改正

本協会における観光ビジネス実務士の資格認定を受けようとする場合は、「観光ビジネス実務士」資格認定に関する規程をもとに教育課程を編成すること。更に詳しい授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。なお、読替科目は（ ）で示した。各科目の講義・演習・実習の別及びその単位数は、当該大学の定めに従う。また、例示科目、読替科目以外の観光ビジネス実務教育関連科目を選択科目としてあてる場合は、本協会資格教育課程審査常任委員会の承認を得なければならない。

## 到達目標

観光産業の動向や役割の理解を深めるとともに、観光分野における知識や技術の修得を通して、自ら観光ビジネスへの関わり方や役割を考えることができる。さらに、自ら観光ビジネス実務士としての社会的・職業的自立を達成するための能力の開発に取り組むことができる。

## 具体的な学修目標

### 【観光学知識分野】

「社会現象としての観光」あるいは「文化としての観光」についての専門知識に関する学修分野である。

- ・現代社会における観光の全体像を理解し、観光と社会の関わりや観光産業を支える社会システムについて説明できる。
- ・観光産業の内容（旅行業・宿泊業・交通業の概況を含む）及び観光事業の全般について説明できる。
- ・観光地の発展のための政策・戦略的な視点・コンセプトなどを理解するとともに、観光の経済波及効果の諸側面について説明できる。
- ・観光のニーズや観光現象に対して、マーケティングの手法や経営の観点で分析し、市場における目標到達のための戦略について説明できる。
- ・地域における観光と文化に関して、観光資源の開発・維持・管理などの知識を習得し、新たな観光ニーズの掘り起こしといった視点で考えることができる。
- ・観光産業において重要なホスピタリティについて、その概念から実践までの幅広い知識や心構えを習得している。

### 【観光実務分野】

「産業としての観光」あるいは「業界・業種としての観光」についての実務のスキルに関する学修分野である。

- ・旅行業・宿泊業・交通業など観光産業におけるビジネスの実務知識を習得している。
- ・ホテル・交通・観光施設などの観光インフラの経営について、環境・利便性・現代的ニーズ・

地域性など様々な方向から分析できる。

- ・旅行業法など観光に関連した法規についての基本的な知識を習得している。
- ・ツアープランニングや観光マーケティングなど旅行の運営面についての実務知識を習得している。
- ・旅行会社・ホテル・空港などでの観光に特化した実習を通じて、観光ビジネスの基本スキルを習得している。
- ・グローバル化する観光産業界に求められる語学力を習得している。

## 【キャリア・教養分野及び総合的実践実務分野】

### キャリア・教養分野

自らのキャリアを考え、能力開発を行い、幅広い職業人として就業する上で必要な学修分野である。

- ・自分の能力を理解し、仕事や社会生活を通じて自らの能力を高める行動をとれる。
- ・広く社会に目を向け、問題意識を持ち、自らのキャリアを考えることができる。
- ・職業生活・社会生活で必要な基本スキルを発揮できる。  
基本スキル：理解力（読む・聞く力）・表現技術（文章表現・口頭表現）・情報活用（数字・データ・情報機器操作）
- ・主体的に調べ、多面的に考え、自ら問いを發して考察できる。
- ・現代社会の問題を多面的に理解し、人としての行動のあり方を考えられる。
- ・社会のルールや約束や時間を守るなどの自律的な行動をとることができる。
- ・批判力をもって問題を理解し、建設的に対話や議論ができる。
- ・市民社会・企業社会の一員として、思いやりやボランティア精神をもって行動し、市民としての責任を果たすことができる。

### 総合的実践実務分野

大学で学んだ知識・スキルを実践実務の場で活用して、チームによる課題解決を実践する能力を育成する学修分野である。

- ・大学の基礎教育や専門分野で学んだ知識・スキル・態度を活かして総合的な課題解決ができる。
- ・実践の場で責任感をもって取り組み、自ら進んで現場のニーズに対応した行動をとることができる。
- ・実践の場で多様な人と関わりをもって課題解決することを通じて、自らの課題実践力を高める課題を見出すとともに、自らのキャリアや能力開発の方向性を見いだすことができる。

## I. 必修科目（注）下記規定 2 科目の資格必修科目は、規定された学修内容と同等の内容を含む科目であれば可とする。

### 観光総論

観光に関する基礎・専門知識について学修し、次のような内容を含むものである。（観光概論など）

- |                |               |
|----------------|---------------|
| ① 観光の意味と現代的意義  | ⑥ 観光資源の保護・開発  |
| ② 観光を構成する要素    | ⑦ 情報化社会における観光 |
| ③ 社会情勢の変化と観光   | ⑧ 国際化社会における観光 |
| ④ 観光の経済効果      | ⑨ まちづくりと観光振興  |
| ⑤ 観光の社会的・文化的影響 | ⑩ 日本の観光の現状と目標 |

## 観光実務

観光ビジネス実務を実際に行うために必要な知識・技術について学修し、次のような内容を含むものである。（観光ビジネス実務総論 など）

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| ① 旅行・宿泊・交通業の実務知識 | ⑥ 観光における広報・宣伝活動         |
| ② その他観光関連産業の実務知識 | ⑦ 観光おもてなしの心構え           |
| ③ 観光とマネジメント      | ⑧ 観光の場面におけるサービス・接遇      |
| ④ 観光マーケティング・商品開発 | ⑨ 観光サービスに求められる技能        |
| ⑤ 観光商品の販売・営業     | ⑩ その他観光ビジネス実務に必要な知識・技術等 |

## Ⅱ. 選択科目

### I 群【観光学知識分野】

観光学の基本的な考え方を学び、観光に関する現代的なトピックについて学修する。

#### 「観光政策論」

インバウンド、観光における国際収支、訪日外国人の誘客、MICE（国際会議等）といった観点から「観光立国」を目指す上でわが国にとって課題となる諸局面を考察する。  
（観光行政論、国際観光論、国際観光開発論 など）

#### 「観光経済学」

観光の経済効果の捉え方やその諸側面を学び、経済波及効果の構造に対する理解を深める。さらに国際経済や地域経済と観光との関わりなどについて学ぶ。  
（観光経営論、サービス流通論、観光マネジメント など）

#### 「観光マーケティング」

マーケティングの一般理論ならびにこれまで他の分野で蓄積されてきたマーケティングの手法を使って観光現象を解析し、市場における目標到達のための施策を立案するといった方法論を学ぶ。  
（観光統計、観光調査法入門 など）

#### 「観光産業論」

観光において中核をなす諸産業（旅行業・宿泊業・交通業など）に関して、その意義と歴史、現代観光との関わり、取り巻く環境の変化などについて学ぶ。  
（観光ビジネス論、観光事業論、旅行産業論 など）

#### 「地域観光論」

経営戦略の視点から、特定の地域における観光の現状と課題について学び、観光を通じた地域振興、国際競争力のある観光地形成などに関する理解を深める。  
（観光地域開発論、観光まちづくり論、北海道の観光政策 など）

#### 「観光資源・観光文化論」

観光地形成の基盤、観光地経営の動力源、さまざまな観光商品の素材となる観光資源について、観光資源としての発掘や育成の方法などを学ぶ。また、観光地における観光現象を解析する方法論として文化人類学や人文地理学などの一般理論を用いた手法について学ぶ。  
（観光地誌、仙台の歴史と文化、京のくらし、北海道の観光、観光文化人類学、地域の伝統産業、

世界遺産論 など)

#### 「ニューツーリズム論」

エコツーリズムやサステイナブル・ツーリズムなどの新しい考え方に基づく観光の諸形態が、環境の保全・保護、地域の発展などの面において果たしうる役割について学ぶ。  
(エコツーリズム論、グリーンツーリズム、環境ツーリズム論 など)

#### 「ホスピタリティ論」

ホスピタリティの概念、ホスピタリティの構成要素、ホスピタリティインダストリー、ホスピタリティとマーケティングなど、ホスピタリティの基本概念を学ぶ。

### Ⅱ群【観光実務分野】

観光に関連する諸産業についての理解を深め、観光分野における実務能力を高める。

#### 「旅行業法・旅行業約款」

旅行業法および旅行業約款について、旅行業法の目的、登録・営業保証金制度、旅行業務取扱管理者制度、旅行取引に関する諸規則、旅行業協会制度、旅行業約款の目的、企画旅行契約(募集型・受注型)、手配旅行契約などを系列的に学ぶ。  
(観光関連法規 など)

#### 「旅行ビジネス実務」

旅行業務に必要なツアープランニングや観光マーケティングから旅行業の経営ならびにIT化など、旅行業を取り巻く諸問題をビジネスの視点で学ぶ。  
(ツアープランニング、国内旅行実務、旅行実務論 など)

#### 「海外旅行実務」

海外旅行商品のマーケティング、ツアープランニング、検索・照会・予約・発券などの販売窓口実務、対面接客による海外旅行商品の説明方法などについて学ぶ。

#### 「観光産業ビジネス実務」

ホテル・旅館などの宿泊業や、交通運輸業など、観光産業のスタッフとして高いホスピタリティマインドを持って仕事に携わるために、サービスの基礎を修得し、観光ビジネスに必要なマーケティングや経営戦略、事業開発などについて学ぶ。  
(ホテルビジネス実務、ホテル演習、航空ビジネス実務、航空実務論 など)

#### 「観光外国語会話」

英語をはじめとする諸外国語について、観光の様々な状況に合わせて使用できる応用力と高いリスニング能力を備えた語学力を養成する。  
(観光英会話 など)

#### 「地域における観光産業」

地域性に根差した観光関連業種の特徴、各地域の課題・問題点について学ぶ。併せて、地場の観光産業に必要とされる資質・知識・技能について知ることや、実務実習・見学研修などを通じて、各業種に対する理解を深め、就業力の向上を図る。

#### 「観光インターンシップ」

旅行業・宿泊業・交通業などの観光産業において、概ね1週間以上の観光サービスに特化したインターンシップを実施する。職業観の涵養にとどまらず、サービス技能の向上やキャリア形成のための自己開発などを目的とする。

(観光ビジネス実務実習 など)

### Ⅲ群【キャリア・教養分野及び総合的実践実務分野】

自らのキャリアを考え、能力開発を行い、幅広い職業人として就業する上で必要なことを学修する。

#### 「実践キャリア考」

科目例：キャリアデザイン、キャリアプランニング、キャリア概論、キャリア心理学、キャリア研究、キャリア開発、就業とキャリア、就業への道、職業と学習、職業と人生 など

#### 「大学の基礎教育」

科目例：大学での学びのための基礎教育（教養ゼミ・基礎ゼミ）、文章表現、国語表現法、パソコン入門、プレゼンテーション など

#### 「人間行動」

科目例：社会心理学、組織心理学、産業心理学、対人コミュニケーション、人間関係論、人間科学論、倫理学 など

#### 「現代社会」

科目例：現代社会論、産業社会論、ボランティア論、ホスピタリティ論、女性労働論、環境論、経済学、国際経済学、国際理解、比較文化論、地域文化論 など

大学で学んだ知識・スキルを実践実務の場で活用して、チームによる課題解決を実践する能力を育成する。

#### 「総合的実践実務」

大学で学んだ知識・スキルを実践実務の場で活用して、チームによる課題解決を実践する能力を育成する。

#### 「プロジェクト演習」

科目例：プロジェクト実践、プロジェクト研究、プロジェクトワーク、チーム学習、フィールドワーク、チームで課題を解決する演習（基礎ゼミ・基礎演習・専門ゼミ・専門演習） など

#### 「課題解決演習」

科目例：ビジネス実務総合演習、PBL演習、課題実践、課題研究、課題演習、総合演習 など

#### 「インターンシップ」

科目例：企業実習、職場体験実習 など

## 「社会貢献」

科目例：サービスラーニング、ボランティア実習、社会貢献体験実習、地域アクティビティ、地域とボランティア、地域共生 など